

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

<1988年7月9日創刊>
 <毎月1日発行>
滋賀県民主教育研究所
 〒520-0052 大津市朝日が丘1丁目
 11-3 教育文化会館2F
 TEL & FAX 077-525-5364
 教育110番 077-523-3715
 e-メール shiga.minken@gmail.com
 HP: http://shiga-minken.jimdo.com/
 振替口座番号(会費振込にご利用ください)
 ①ゆうちょ銀行/記号番号 01070-5-40576
 ②滋賀銀行本店営業部/普通口座 511256
 加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

今冬、3つの研究会に参加

年末から年始にかけて、3つの研究会に参加した。1つは立命館大学内で行った大東文化
 大学渡辺恵津子先生を迎えての勉強会&
 交流会、愛知県と京都府の若い二人の先
 生の話もふくめて「これから教師になる人
 〆」と題して行われた。参加者は60名。

そして12月26日から27日にかけては日本
 生活教育連盟石川サークルの第49回冬の
 集会、立命館大学からマイクロスほも使って
 30名を超える参加者、福島南相馬町の白
 木先生の話、そして愛媛の河野先生の教
 師の歩みを聞くだけでなく、各地から集
 まった参加者のレポートを3つの分科会に
 分かれて討議した。

最後は正月4日から5日にかけて立命館
 大学BKCにある教職をめざす学生の自主
 ゼミの連合体(11ミセル)の第2回研究大
 会。卒業生と現役3・4回生の合同の研究
 会で、参加者は約30名。それほど大きな
 学びあいではないが、そこに参加した学生
 の顔が生き生きしていたのが印象的だ。

「学生は今何を求めているのだろうか?」

出会うこと

浦島清一



「学ぶ意欲などないのではないか」などの話
 を聞くことがあるが、本当にそうか。私
 がこれらの研究会を通じて目にしたものは、
 そこに参加し、意欲的に学んでいる生き生
 きと参加している学生たちの姿だった。

様々な学びに出会わせることの重要性

子どもたちの意欲をどう高めるのか、と
 問われたときに、その答の1つに、様々な
 学びに出会わせることの重要性を、最近
 特に思うようになった。今の学校体制の中
 で育ってきた学生の多くは、学びにつな
 がる出会いを経験していることが少ない。「知
 らない」「出会ったことがない」以上、物
 や人への興味はわいてこない。バーチャルな
 世界の情報だけがあふれている場にいる彼
 らは、実物や実際に生きている人や場所
 に出会うことによって、今まで生まれてこ
 なかった関心に目覚めることが多い。

12月のはじめに取り組まれた社会科自主
 ゼミのフィールドワークでも、北近畿(舞鶴・
 丹後)を訪問し、はじめて「朝鮮人や中
 国人の強制連行」に触れ、目の前でリアス
 式海岸や天橋立の地形に接し、その美し

《今月の紙面》

- ・ 出会うこと/浦島清一(立命館大学BKC教育支援センター講師).....1p
- ・ 今、学校はなぜ忙しいのか? どうすれば変えられるのか?/近藤恭司(桐原小学校).....2-3p
- ・ 道徳の「教科化」の意味するもの/本田清春(滋賀民研事務局次長).....4-5p
- ・ 部会報告【第1部会】綴り方といじめと学級集団実践/ヴィゴツキー理論学習/倉本頼一(滋賀大学/立命館大学).....6p
- ・ 書評:春日井敏之・近江兄弟社高等学校単位制課程編『出会いなおしの教育-不登校をともに生きる』ミネルヴァ書房/家長隆(立命館大学講師).....7p
- ・ 滋賀の教育動向(11・12月).....8p

《2014年2月号 No.308》

さと同時に、その地形の生まれてきた経過
 に興味を持つようになった。さらに、造り
 酒屋での杜氏の話に引き込まれながら、そ
 の世界の奥ゆかしさを感じることができた。
 こうしたリアルな幅広い出会いをどのよう
 に生み出していくのか、すぐにたどり着き
 たい地点には行かないかも知れないが、そ
 こを豊かにすることが今重要なのだと教え
 てくれた。

(うらしま せいいち 立命館大学BKC教
 職支援センター講師)

